

IB インカレ 2025（第 15 回大会）

プレゼンテーションのルールとファイルの提出について

2025 年 11 月 21 日

IB インカレ審査委員会

***2024 年大会より変更はありません**

1. プレゼンテーションの審査項目と配点（公式ガイドブックより）

予選（配点 20 点）

1. 適切な言語と非言語表現（スライド含む）による明瞭さ（6 点）
2. 論理的一貫性（結論までが一貫したストーリーとして伝達できたか）（6 点）
3. 質疑応答における回答（回答内容と時間、表現の適切性など）（8 点）

決勝（本選）（配点 30 点）

1. 適切な言語と非言語表現（スライド含む）による明瞭さ（6 点）
2. 論理的一貫性（結論までが一貫したストーリーとして伝達できたか）（6 点）
3. 質疑応答における回答（回答内容と時間、表現の適切性など）（8 点）
4. 研究内容（プレゼンを通じて研究内容を評価する）（10 点）

以下の行為は減点の対象となる場合があるので注意すること

- ・ 論文提出後に追加した文献やデータをプレゼン内で明確に提示していない場合
- ・ プレゼンの時間を守らない場合
- ・ プレゼンファイルの提出が遅れた場合
- ・ 主催校、審査員の指示に従わない場合
- ・ 尚、機器や通信の動作不良によるアクシデントは減点対象とはならない

2. プレゼンファイルの提出と共有について

- ・ プレゼンファイルの提出はゼミ単位ではなく出場チームごとに行う。
- ・ プレゼンファイルの提出期限、提出方法については、論文提出締切後に出場チームの代表者へメールで案内がある。この案内に従い、提出期限内に指定の方法で提出する。
- ・ 遅延、その他のミス等が生じた場合は「公式ガイドブック」に基づき審査委員会内での協議・検討を経て、当該出場チームの代表者へメールで連絡しますので、しばらくお時間をいただきます。
- ・ ファイルの形式は**マイクロソフト社パワーポイントあるいは PDF とする**。ファイルのサイズは**最大で 25MB** です。

- ・ パワーポイントの表紙スライドには「大学名，ゼミ名，チーム名」を記載してください。メンバーの氏名の記載は任意です。
- ・ 複雑なアニメーションの使用はできるだけ避けましょう。会場の PC で正確に作動しない場合があります。
- ・ ファイル名は半角小文字の英字で「大学名_ゼミ 教員名_チーム名」とします
(例：housei_tada_orenge) *daigaku は省略してください。教員名は苗字のみです。
- ・ 出場チームとオブザーバーは別途案内する共有フォルダよりすべてのプレゼンファイルを閲覧できる。
- ・ パソコンあるいはタブレット端末 (iPad 等) を使用して当日プレゼン資料を表示・閲覧する。

3. 審査員の配置と審査方法

- ・ 各審査員の持ち点は 20 点 (決勝は 30 点) とする。
- ・ 午前の部では各予選会場に 2 ないしは 3 名の審査員を配置し全審査員の平均点をプレゼン点とする。
- ・ 決勝では全審査員が審査を担当するが，担当ゼミ教員は自身のゼミの審査は行わない。
- ・ 決勝の審査では，全審査員による得点のうち最高点と最低点を差し引き残った全審査員による得点の平均点をプレゼン点とする。
- ・ 午前 (予選) と午後 (決勝) におけるプレゼン内容は原則として同一とするが，微調整，微修正は認める。
- ・ 予選の結果はお昼休みの時間に IB インカレ 2025 特設ウェブサイト上で発表する。
- ・ 決勝での各チームの発表の順番は審査委員会にてランダムに決定し，IB インカレ 2025 特設ウェブサイト上で発表する。

4. 時間配分と小道具に関するルール

- ・ プレゼンテーションは 15 分間とする (15 分経過した時点で強制終了となる)。
- ・ 質疑応答は 10 分間とする。
- ・ 公平を期すため，プレゼンテーションではレーザーポインター，パネル，ボードなどの小道具は一切使用できない。
- ・ スライドチェンジャー (リモコン) のみ使用可能とする (主催校で用意します)。

5. 質疑応答におけるルール

- ・ プレゼンテーションにおける司会者は主催校の学生が担当する。
- ・ IB インカレ出場学生 (論文執筆者) は各会場の司会者の指示に従い指定された場

所に着席する（出場学生とオブザーバーの区別を明確にするため）。

- ・ 質問は出場学生，オブザーバーの区別なく受け付ける。
- ・ 大会の目的である「切磋琢磨の場の創造」の観点より，報告者の論文の質を高めることに資する質問を心がける。
- ・ 質問者は事前に論文を読み，質問を準備してくることが望ましい。
- ・ 質問者は挙手の上，司会者による指名の後，所属ゼミと氏名を発言してから質問を開始する。
- ・ 時間内に 3 名程度の質問を受け付けられるように冗長な質問と回答は避ける。
- ・ 1 回の挙手にて受け付ける質問は 1 問とする。
- ・ 質疑応答中，回答者はプレゼンで使ったスライドを提示しながら回答できる。
- ・ **プレゼン内で使用していない新たなスライドや資料を準備して質疑応答で使用することはできない。**
- ・ 原則として審査員は質問を行わない。
- ・ 出場学生より質問がない場合に限り，審査員がコメントを述べるができるが，審査員は時間の厳守を心がける。

6. 英語論文報告における質疑応答について

- ・ 使用言語は英語とする。
- ・ 英語論文チームは英語での質問に対して 1 回のみ日本語で回答を行う権利を有する。この権利は予選，決勝それぞれに 1 回とする。具体的には，英語での質問を十分に理解できない場合，あるいは英語での回答に窮する場合，「日本語で再度質問をお願いします」「日本語で回答いたします」と発言し，その質問に対してのみ日本語を使用できる。その選択権は発表者側にある。質問者はまず英語で質問しなければならない。但し日本語の理解が不自由な留学生による質問に対してはこの権利は行使できない。この新ルールは質疑応答の質を高めることを目的としている。
- ・ **日本語論文チームは英語論文チームに対して日本語で質問できる（英語の使用も可）。この場合，英語論文チームも日本語にて回答ができる。**

7. 参加者の区分

出場学生

論文提出時に Google Form にて登録した出場チームのメンバー（学生）

オブザーバー

出場学生と審査員を除くすべてのオーディエンス。具体的には出場ゼミ所属の学生（2 年，3 年，4 年），卒業生，オブザーバーゼミの学生など

以上